

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170202055		
法人名	有限会社 ティージー・サポート		
事業所名	グループホーム 伏古公園 ユニット1		
所在地	札幌市東区伏古1条2丁目3番23号		
自己評価作成日	令和3年7月15日	評価結果市町村受理日	令和3年9月17日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigvosvoCd=0170202055-00&ServiceCd=320
-------------	---

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者様と日々の関わりを大切にしている。職員の意識を高める事で介護の質を上げ、入居者様の生活をより良いものに出来るよう努めている。利用者様の重度化に伴い、御家族様にも協力をして頂き、安心・安全な生活を送れるように支援しております。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和3年8月24日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホーム 伏古公園」は、自然豊かな伏古公園に隣接した静かな住宅地に立地している。バス停にも近く、交通の便が良い事業所である。居間や食堂は明るく開放感があり、壁には利用者と一緒に制作した干支のちぎり絵や季節の装飾がさり気なく施されている。廊下や階段にはセンサーライトを設置し、災害時にも明かりが確保できるように工夫している。管理者を中心に全職員で各利用者に寄り添い、理念に沿ったケアを目指し日々熱心に取り組んでいる。身体拘束の内部研修では、職員が利用者役になり想定できる事例に沿った実地研修を行うなど工夫した取り組みを行っている。職員意見の反映では、管理者が職員の意見や提案を聞き取り、意見交換しながら職員のコミュニケーションを深めて統一したケアを行っている。職員の離職率も低く、安定した職員で継続的な支援が行われている。食事面では、個別での誕生日祝いや行事食、利用者参加の食事作りなど楽しく食事ができるように工夫している。医療支援の面では、内科以外の往診体制も充実しており、利用者や家族の安心と受診への負担軽減につながっている。感染症の流行により通常面会が難しい中、窓越し面会や「伏古公園だより」の発行再開、毎月の写真と利用者の様子を伝えるコメント送付など、家族が安心できるように工夫しながら温かな支援を行っている。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある			○	3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えていく (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(ユニット1)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日の申し送りで復唱し、理念を共有し実践、対応している。	運営理念の3項目の中に、私たちは地域社会とのつながりを大切にしますという文言が含まれている。事業所内に掲示し、職員のネームプレートにも記載している。会議などで理念に沿ったケアを確認し、全職員で共有しながら実践に努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	昨年よりコロナの影響で、町内イベントも中止となり地域との交流は、出来ていない。	感染症流行前はバルーンアートや腹話術のボランティアが来訪したり、地域のプランター作りなどに利用者と一緒に参加していた。地域の方からエプロンの寄付を受けたこともある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	御利用者様の状況はホーム便りを通じて発信し理解を深めていただけるよう努めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナの影響により外部の方を交えての会議は行っておらず施設職員のみでの開催したり書面会議に変更をしている。	感染症流行前は、町内会役員なども参加してインフルエンザ感染症や精神科との関りをテーマに開催している。現在は書面会議を開催し、新型コロナウイルス感染症の情報を提供したこともあるが、事業所の報告が中心になっている。	書面会議の場合も、家族や地域住民に役立つ情報の資料を添付するなど、更なる議事録の充実を期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	必要に応じ連絡を取り相談や報告をし協力関係を築くよう取り組んでいる。	市役所に事故報告書に関する相談をしたり、区役所の保護課に利用者の状況を伝えながら情報交換している。介護保険課から新型コロナウイルス感染症の対策についての情報を得てケアに活かしている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年に2回の内部研修や施設内での、御利用者様の状況に応じ都度確認しながら正しく理解するよう努め、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	禁止の対象となる具体的な行為を記載したマニュアルを整備し、理解しやすいように利用者と職員役になり実地研修を行っている。玄関の鍵は感染症流行のため、現在は日中も施錠している。身体拘束廃止委員会と勉強会の議事録を更に見やすく整理したいと考えている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年に2回の内部研修で具体例をあげて学ぶ機会を設けており全職員で防止に努めている。		

グループホーム 伏古公園

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(ユニット1)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	コロナの影響により外部研修参加は行っていないが必要時に活用できるよう内部研修で制度について学ぶ機会を作っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	説明時には御本人や御家族の不安や疑問を伺いながら十分な説明を行い理解、納得して頂けるよう努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	常に情報共有に努めている。ご家族からのご意見や、お問い合わせに関しても都度、状況説明をしたり、話し合う機会を設けている。	感染症流行のため面会は少ないが、窓越し面会時や電話で利用者の近況を伝えて意見や要望を聞き取っている。3か月ごとにお便りを発行し、写真と一緒に利用者の様子を毎月家族に伝えている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	フロアー会議等で日々のケアについて意見交換をし現場の声を聞く機会を作り反映させている。	管理者は会議や日常業務の中で職員の意見や提案を聞き取っている。利用者の状況に応じてシフトの役割分担を変更するなど、ケアの中に職員の提案が反映されている。職員間のコミュニケーションも良く、管理者と話しやすい関係が築かれている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の日々の動向を把握し代表、管理者で話し合い、より良い職場環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	現在コロナの影響にて外部研修の参加は中止している。施設内での事例や問題点を議題にし内部研修を行ったりしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナの影響により行っていないが必要に応じてFAXやメールなどを利用し連携をしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(ユニット1)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に事前に、御本人が感じている不安や要望、御家族からの情報を共有し、ご本人が安心してサービスを受けられるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	御家族が思っている不安や、要望を伺いケアプランを作成している。ケアプラン更新時には、現状報告をし、その都度、不安や要望が無いかを伺い関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	御家族、御本人からの情報をもとに、どう支援していくか考え、提案しサービス内容を決めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	御本人の思いを大切にしながら状況に応じて、他者ともコミュニケーションを取り安心して暮らせるよう努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	現状を報告し情報共有をしている。共に考え支え支援するよう努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナの影響により面会制限中の為、ガラス越しでの面会や、電話での対応を行なっている。顔を見て話ができるようリモート面会の準備を進めている。	仕事関係の知人から電話や手紙、ハガキが届く利用者もいる。感染症流行前は、家族と馴染みの美容室や喫茶店に行ったり、お墓参りや法事に出かけていた利用者もいた。親族に暑中見舞いを書いた利用者もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	交流できるようにレクや行事を行い、きっかけ作りになるようにしており、職員が声掛けし間に入ったりしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ユニット1)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後の関わりは殆ど無いが、稀に電話や葉書などで報告を頂いたり、相談をされた際は、可能な限り支援している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員間で話し合い、出来るだけ希望に添えるよう努力している。	会話や発語、仕草、表情などから思いや意向を把握し、職員間で共有している。センター方式シート(B-3)の更新と生活歴の書類整備が十分とはいえない。	利用者の変化に応じてB-3シートの追記や更新を行い、生活歴も見やすく整理するよう期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	御家族、御本人から、話を伺い情報を収集している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日のバイタルチェック、御本人の訴えなど、小さな変化にも気づけるよう努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	御家族様の要望を聞き、日々の生活での課題に着目し全職員でモニタリングに取り組み、介護計画書を作成している。	普段から家族の意向を聞き取り、計画作成担当者を中心に全職員で評価を行い、3か月ごとに介護計画を作成している。毎月、介護記録を家族に送付している。家族の思いを更に具体的に聞き取り、介護計画に活かしたいと考えている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や変化等は、介護記録に記入している。状態の変化や気づいた事、変更事項などは、申し送りや、連絡ノートに記入し、共有し実践している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	問題発生時には、チーム間でどのようにしたら良いか話し合いし、より良い対応が出来るよう努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	今年度はコロナの影響で外部からのボランティア来所や町内会の行事、外出が出来ていない。ホーム内で楽しめるように工夫している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	緊急時は24時間体制にて対応。往診、訪問看護、歯科往診にて対応をしている。	月2回内科の往診があり、利用者の状況に応じて精神神経科、皮膚科、歯科の往診体制も整えている。外部受診は家族対応を基本に事業所でも支援している。受診記録は「診療記録簿」に個別に記入している。	

グループホーム 伏古公園

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(ユニット1)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週月曜日に訪問看護を受けている。浣腸など処置が必要な時や、日々の状態の変化、受診結果など情報共有や相談をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	介護記録に基づき介護添書を作成しADL、認知度など情報提供をしている。コロナ渦で、お見舞いが出来ない為、御家族様や医療機関と電話で状況を伺い、早期に退院できるよう努めている。退院時には、看護添書、リハビリ添書等を提供していただいている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	主治医、看護師に相談し、指示を仰ぎ、ご家族様とも話し合いながら決定するようにしている。	利用開始時に「重度化した場合における対応指針」に沿って、経口摂取が難しくなった場合や常時医療行為が必要になった時は対応が難しいことを伝え、体調変化に応じて医師、家族、事業所対応を話し合い方針を決めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	内部研修や外部研修に参加し理解を深めるようにしているが、コロナ渦にて外部研修の参加は出来ない。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回昼夜に分けての避難訓練を行っている。消防署員立合いでのホーム全体での訓練はコロナ渦で行われていない為マニュアル等の確認、紙面で行っている。	感染症流行のため、地震や火災を想定した自主訓練を行っている。地震時の危険箇所を確認したが、今後はケア別や利用者の精神状態に応じた個別対応について話し合う予定である。感染症流行により、職員の救命講習の受講は進んでいない。	感染症の収束状況に応じて、消防署や地域住民参加の避難訓練を実施するよう期待したい。また、職員の救命講習も計画的に進めるよう期待したい。
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格の尊重とプライバシー確保の指導を受け対応している。	スピーチロックなど接遇に関する内部研修を行っている。個人記録は人名が判らないよう保管し、申し送りの際も個人が特定できないよう配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	なるべく御本人の希望を表現できるよう職員同士で申し送り等で話し合いをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々のペースに合わせられるよう、出来るだけ希望に添えるよう努力している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節や室温に応じて、組み合わせを行い、行事などでは、おしゃれが出来るよう支援している。		

グループホーム 伏古公園

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(ユニット1)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	馴染みの食器を使う事で親しみが生まれ、おいしく食事が出来るよう配慮している。下ごしらえや片づけを一緒に行っている。	法人の管理栄養士作成の献立を使用している。誕生日やイベントがある日は利用者の好みの物や季節にあった食事を楽しんでいる。利用者も職員と一緒に調理に参加し、職員も一緒に食事をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	介助が必要な方へは、御本人の飲みたい時間に合わせ提供をしたり、嚥下状態が悪い方には、トロミを使用している。一度に摂取が出来ない場合には、数回に分けて摂取したり時間をおき再度提供するなどし支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯ブラシ、スポンジ、口腔ジェルなどを使用している。歯科の訪問診療により指導を受けたり、義歯の調整をしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄のパターンを把握し定期的に声掛けをしたり誘導を行っており、汚染の軽減に努めている。	介護記録の排泄欄に記録をしている。おむつやパッド、リハビリパンツを利用者の希望や状態に合わせて使用している。職員間で細かくコミュニケーションをとり、利用者一人ひとりに合わせたタイミングで声かけや誘導を行い、失敗を減らしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	主治医による下剤の処方、腹部マッサージや乳製品の摂取などで便秘予防に取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴剤を数種類用意し季節や、御本人の好みに合わせ使用している。入浴は基本週2回程度、排便状況により随時入浴やシャワー浴での対応もしている。	日曜日以外の午後の時間帯を中心に週2回程度の入浴を支援している。利用者希望の湯温や入浴のタイミング、入浴剤の使用のほか、同性介助の希望にも対応している。状況に合わせてシャワー浴の時もある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	傾眠の様子や血圧の状態、体調に合わせて休息の時間を設け臥床している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情の把握により理解している。介助にて確実に服用出来るよう支援している。精神薬、便秘薬などは、医師、薬剤師と相談し状態を報告し調整している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	歌う機会を設け楽しんだり、畑を作り、収穫を楽しんだりしている。誕生日には、御本人の楽しめるレクリエーションを実施している。		

グループホーム 伏古公園

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(ユニット1)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナの影響により外出は、出来ていない。受診で外出する程度。	感染症流行前は、伏古公園に梅や桜など季節の花の見学や事業所近隣の庭の草花を見ながら散歩に出かけていた。大型商業施設への買い物支援なども行っていた。今後も感染症の収束状況を考慮しながら外出を再開したいと考えている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	施設で管理をしている。必要に応じて職員管理のもと使用している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	可能な方は、電話を取り次ぎ、話しをして頂いている。不可能な方は、時々職員が電話し近況報告をしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間は、季節感を感じていただけるよう装飾品を飾り工夫をしている。室温。湿度管理を行い居心地よく過ごせるよう工夫をしている。	事業所内複数箇所にエアコンを設置し利用者が居心地よく過ごせる室温が保たれている。居間の大きな窓からは伏古公園の様子が見え、近隣の子供たちの様子や木々から四季を感じることができる。春は利用者家族撮影の桜の写真や、夏はヨーヨーを飾るなど季節感のある飾りと利用者の写真が多く飾られており、温かみのある空間になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間に一人で過ごせる所はないが自席では無く、ソファで過ごして頂いたりしている。御利用者様の状況により席替えをしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	御本人の使い慣れた家具などを持参していただいている。室内は御本人が使いやすい危険の無いように設置している。	ベッドと物干し竿が備え付けられている。利用者が以前から使用しているタンスや仏壇などの他、テレビ、ラジカセなど趣味に関する物を持ち込んでいる利用者もいる。壁には職員作成のバースデーカードなどが飾られ温かみを感じられる居室になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	身体的な事や認知症のレベルを考慮し家具の配置や備品の配置に配慮し、できるだけ自立した生活が送れるよう工夫している。		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170202055		
法人名	有限会社 ティージー・サポート		
事業所名	グループホーム 伏古公園 ユニット2		
所在地	札幌市東区伏古1条2丁目3番23号		
自己評価作成日	令和3年7月15日	評価結果市町村受理日	令和3年9月17日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigvosvoCd=0170202055-00&ServiceCd=320
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和3年8月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者様と日々の関わりを大切にしている。職員の意識を高める事で介護の質を上げ、入居者様の生活をより良いものに出来るよう努めている。利用者様の重度化に伴い、御家族様にも協力をして頂き。安心・安全な生活を送れるように支援しております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己 評価	外部 評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日の申し送り時に理念を復唱確認し共有している。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	昨年の春以降コロナの影響により町内のイベントも中止の為、地域との交流は、出来ておらず、散歩など外出も控えている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議等を通じて地域に発信・交流を行っていたがコロナ渦で外部の方を交えた会議は控えている。ホーム便りの回覧等で理解を深めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ渦により施設職員のみでの開催となっている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	必要に応じ連絡を取るようにし協力関係を築けるよう努めている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	内部研修により事例検討など更に理解を深め、拘束を行わないケアに取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	会議や日々のケアにおいて言葉使い等にも十分配慮し防止に努めている。		

グループホーム 伏古公園

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要に応じ利用者の状態に応じて相談を受けるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明を行い理解・納得して頂けるよう努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	常に情報共有に努めている。ご家族からのご意見や、お問い合わせに関しても都度、状況説明をしたり、話し合う機会を設けている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	フロアー会議等で日々のケアについて意見交換をし現場の声を聞く機会を作り反映させている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の日々の動向を把握し代表、管理者で話し合い、より良い職場環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	現在コロナの影響にて外部研修の参加は中止している。施設内での事例や問題点を議題にし内部研修を行ったりしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナの影響により行っていないが必要に応じて連携をしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居相談や手続きの段階で不安や要望を伺いケアプランに反映し入居後も安心して過ごせるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	近況を報告し情報共有に努めている。要望や不安等があれば聞くようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	御本人の状況や御家族や医療機関等からの情報により必要な支援を見極め必要に応じ他サービスの利用を検討している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員間で情報を共有し日々の変化を見逃さないように努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	御本人、御家族に寄り添い、より良い関係を築き支えられるよう努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	現在は来所制限中の為手紙や電話等の対応で支援している。関係が途切れないよう状況に応じて近況報告を行っている。現在タブレットを使用してのリモート面会の準備を進めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が間に入り、利用者同士、関りを持てるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了、退去した方(家族)との関わりは殆ど無いが電話等で経過の報告を受けている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	可能な限り個々の希望に添えるよう努力している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	御家族や御本人等からの情報収集により、馴染みの暮らしが継続できるように務めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1日の行動を記録に残し、職員間で情報を把握、共有し馴染みの暮らしが継続できるよう務めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	御本人の課題となる事柄について、職員間で話し合ったり、全職員でモニタリングを定期的に行い介護計画書を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日中、夜間、日々の変化や気づき、御本人が言葉にした事を記録に残している。問題や特変時には、申し送りや連絡ノートを利用し情報の共有を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況に応じチーム間でどのようにしたら良いか話し合い、他サービス等の活用も含め、より良い対応が出来るよう努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	今年度はコロナの影響で外部からのボランティアや町内会の行事等、外出が出来ていない。ホーム内で楽しめるように工夫している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	緊急時は24時間体制にて対応。往診、訪問看護、歯科往診にて対応をしている。		

グループホーム 伏古公園

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週月曜日に訪問看護を受けており、相談や処置等のアドバイスを受け支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	介護記録等に基づき添書を作成し薬情提出をする等情報提供をしている。コロナ渦によりお見舞いは、出来ないが電話連絡にて情報交換をし早期退院に努めている。退院時は看護添書を提供していただいている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	施設の方針により対応が厳しい事もあるが主治医の指示に従い可能な限りの支援に取り組んでいる。御家族様とも話し合いながら決定するようにしている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	内部研修や外部研修に参加し理解を深めるようにしているが、コロナ渦にて外部研修の参加は出来ていない。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回昼夜に分けての避難訓練を行っている。消防署員立合いでのホーム全体での訓練はコロナ渦で行われていない為マニュアル等の確認、紙面で行っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	研修にて接遇を学んでいる。一人ひとりの人格尊重とプライバシーを尊重し言葉掛けを心がけている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	なるべく御本人の希望や意見を聞き可能な限り本人の意思にそえるよう働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々のペースに合わせられるよう、出来るだけ希望に添えるよう努力している。個々の体力なども考慮し午前、午後で午睡の時間を設け支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自己決定できる方には御本人の希望する服を選んで頂いたり、職員が希望を聞き支援している。季節に合った身だしなみや清潔を保てるよう支援している。		

グループホーム 伏古公園

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	可能な方には、準備、片付け等を手伝って頂いている。おやつの時間を利用して定期的に参加型のイベントを行っている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	カロリーコントロールにて体重の増減を管理している。食事、水分量、形態を個々にに合わせ提供し記録に残す事で職員間で情報共有をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯科による訪問診療にて指導していただき毎食後声掛けをし場合により介助、仕上げ等を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄のパターンを把握し定期的に声掛けをしたり誘導を行っており、汚染の軽減に努めている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	主治医による下剤の処方、腹部マッサージや乳製品の摂取などで便秘予防に取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	その日の体調に配慮し、ゆっくり入浴できるように支援している。苦手な方にはシャワー浴で対応し会話も楽しんでいただけるよう工夫をしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活習慣を理解し支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は薬情を確認し理解を深めている。誤薬を防ぐよう見守り、介助をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の得意、不得意を理解し楽しんでいただけるように毎日レクリエーション等で支援している。		

グループホーム 伏古公園

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	昨年よりコロナで外出は出来ていない。来所制限中の為ご家族とは、ガラス越しで面会をして頂いている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	施設で管理し必要に応じて個別で買い物をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば御家族様等と連絡を取れるよう支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごと温度や湿度調整をしたりし季節に応じた装飾品を貼り変える等で季節感を感じて頂けるよう工夫している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	時折席替えをしたり、お互いに話しの合う利用者様同士を近くにするなど、工夫している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人の使い慣れた物を持参していただいたり、危険の少ないように家具を設置し過ごしやすい環境を作っている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの能力に応じ出来る事は見守りながら行っている。		

目標達成計画

事業所名 グループホーム伏古公園

作成日：令和 3年 9月 15日

市町村受理日：令和 3年 9月 17日

【目標達成計画】

優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	4	書面会議の場合も、家族や地域住民に役立つ情報の資料を添付するなど、さらなる議事録の充実を期待したい。	会議時には資料を作成する。	ご家族様、地域の方々に役に立つような資料を作成し添付する。	12ヶ月
2	35	感染症の収束状況に応じて、消防署や地域住民参加の避難訓練を実施するように期待したい。また、職員の救命講習も計画的に進めるよう期待したい。	消防と日程調整を行い避難訓練を計画する。地域住民の方への協力を呼びかける。救急救命訓練を受講し知識を深める。	早めに日程調整を行い地域住民の方、ご家族様に周知し参加へ繋げる。シフト調整を行い受講スケジュールを組む。(コロナが収束後)	12ヶ月
3	23	利用者の変化に応じてB-3シートの追記や更新を行い、生活歴も見やすく整理するよう期待したい。	ご本人やご家族様から情報収集しBシートに反映、更新を行う。	モニタリングやアセスメントの際に情報を追記し取り組む。	12ヶ月
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。